

平成29年度 帯広畜産大学とのしみず有機の共同研究結果

【試験目的】

昨年度の共同研究結果において、しみず有機は完熟堆肥であることと、植物が吸収できる形態で各種の多量必須元素、微量元素が含有されていることが明らかになった。

そこで、ポット栽培試験により、それらの成分が実際に植物に吸収されているかを確認し、化学肥料の減肥の妥当性を図ることを目的とした。

また、メタン発酵消化液についても同様に試験を行った。

【供試作物】 コマツナ(夏楽天 タキイ)

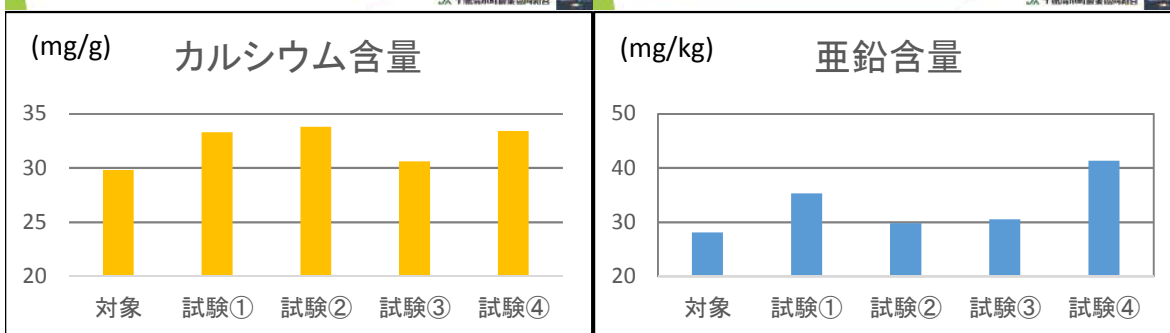
【供試土壌】 畜大土壌(施肥の影響を受けていない土壌)

【試験区分】

N : P : K = 15 : 15 : 15 kg/10a	
対象	化学肥料のみ
試験①	しみず有機 100kg/10a区 + 化学肥料
試験②	消化液 3t /10a区 + 化学肥料
試験③	消化液 3t /10a区 + 化学肥料(カリ減肥なし K:27kg/10a)
試験④	しみず有機200kg/10a+消化液 2t/10a区 + 化学肥料

しみず有機は表示成分、消化液は一般値で設定し、肥料効率を窒素 30%、リン酸、カリは100%とした。

【試験結果】(一部抜粋)



【まとめ】

清水町の地域資源であるしみず有機や消化液は、その肥料成分において化学肥料と同等の効果があるといえる。しみず有機を施用することで、特にカルシウムと亜鉛の作物への供給は増加する。それは、品質の良い作物、人間や牛の健康に寄与する作物を生産することにもつながる。

また、土壌にとっても、しみず有機や消化液のような十分な発酵を経た有機物を施用することは、これまでの耕作で消耗してきた腐植物質を還元し、土壌の機能を維持、回復することに繋がる。

これらの良質な有機物資材をそれぞれの目的に応じて、施用できる時期に積極的に利用して頂きたいと思います。